

令和6年度 第1回 沖縄県がん診療連携協議会議事要旨

日時 令和6年5月10日(金) 14:00～16:50

場所 管理棟3階大会議室

構成員 36名(出席者31名)

(出席者)

1号委員(琉大病院長)	大屋 祐輔
2号委員(県立中部病院長)	玉城 和光
(那覇市立病院長)	外間 浩
3号委員(県立八重山病院長)	和氣 亨
(北部地区医師会病院長)	諸喜田 林
4号委員(沖縄県医師会長)	安里 哲好(代理出席:玉城 研太郎)
5号委員(沖縄県歯科医師会長)	米須 敦子
6号委員(沖縄県薬剤師会長)	前濱 朋子
9号委員(沖縄県保健医療部長)	糸数 公
10号委員(琉大がんセンター長)	増田 昌人
13号委員(琉大薬剤部長)	中村 克徳
14号委員(琉大看護部長)	眞栄城 智子
15号委員(琉大事務部長)	加藤 善一
16号委員(県立中部病院副院長)	天願 俊徳
(那覇市立病院副院長)	宮里 浩
(那覇市立病院がん看護専門看護師)	東恩納 貴子
17号委員(県立宮古病院副院長)	本仲 寛美
(県立宮古病院外科部長)	西原 政好
(県立八重山病院外科医師)	松村 敏信
(県立八重山病院副院長)	名嘉 律子
(北部地区医師会病院副院長兼看護部長)	柴山 順子
(北部地区医師会病院副看護部長)	上地 佳代
18号委員(NPO乳がん患者の会びんく・ばんさあ代表)	与儀 淑恵
(やいまゆんたく会(八重山のがん患者を支援する会)会長)	田盛 亜紀子
(若年性がん患者会 Be style)	又吉 賢弘
19号委員(一般社団法人グループ・ネクサス理事長)	島袋 希美
(国際医療福祉大学大学院教授)	天野 慎介
(琉球新報社北部支社支社長)	埴岡 健一
20号委員(琉大病院病理部長)	松永 勝利
(県立中部病院放射線治療科部長)	和田 直樹
	戸板 孝文

(欠席者)

3号委員(県立宮古病院長)	川満 博昭
7号委員(沖縄県看護協会会長)	平良 孝美
11号委員(琉大がんセンター運営委員会委員長)	鈴木 幹
12号委員(琉大医療福祉支援センター長)	平田 哲生
16号委員(県立中部病院血液腫瘍内科部長)	朝倉 義崇

(陪席者)

緩和ケア・在宅医療部会	笹良 剛史
小児・AYA部会	浜田 聡
情報提供・相談支援部会	友利 晃子
沖縄県保健医療部健康長寿課	伊野波課長、河野班長、山里紘美

(以下、傍聴申込)

ダイコー沖縄、小野薬品 他

大屋議長から新委員について紹介があり、各新委員から挨拶があった。

資料確認等

1. 令和6年度第1回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事要旨(4月3日開催)
2. 令和5年度第4回沖縄県がん診療連携協議会議事要旨(2月2日開催)
3. 令和5年度第4回沖縄県がん診療連携協議会議事録(2月2日開催)
4. 協議会・幹事会・部会委員について
5. 令和6年度の協議会・幹事会の開催の日時について
増田委員から資料及び議事要旨等について確認があった。

有識者報告事項

1. 埴岡委員報告

埴岡委員から資料6に基づき、第4期都道府県がん対策推進計画におけるロジックモデルの活用状況について報告があった。

(主な質疑応答)

- Q.大屋議長:良いとこ取りのロジックモデルとは、標準的なという意味での良いとこ取りなのか、各都道府県が応用しやすいという意味なのか、何が良いロジックモデルなのかコメントお願いします。
- A.埴岡委員:基本的には評価法に基づいている。その中で整合性評価という観点から確認することがロジックモデルの質を確認することになる。

2. 天野委員報告

天野委員から資料7に基づき、遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)診療の現状に関するアンケート調査について報告があった。

審議事項

1. 医療者調査の中間解析結果について

2. 「第4次沖縄県がん対策推進計画(当協議会案)」の進捗について

増田委員から資料8及び資料9に基づき、医療者調査の中間解析結果及び第4次沖縄県がん対策推進計画(当協議会案)の進捗、ロジックモデルについて説明があった。

(主な質疑応答)

- Q.大屋議長:ロジックモデルにある罹患率と死亡率等、数値は決して良くはないが、患者の満足度は高いのはどう理解したら良いか。
- A.増田委員:何故かはよく分からないが、県民性等があるのかもしれない。解釈が難しいところである。
- A.天野委員:P88の各項目の実現率一覧において、数値が低く出ている項目については、今後がん対策を進めるうえで、これを高める努力を一定程度するべきではないか。
- Q.又吉委員:医療者調査は今後どのように公表されるのか。
- A.増田委員:今回の調査は中間報告である。3か月後の協議会で資料を提出するため、ベンチマーク部会等の評価会議で諮ったうえで、正式な報告書としてまとめる予定である。
- Q.玉城先生:がんの5年生存率は改善していく必要がある。医療機関間格差、治療の均てん化が1つの大きな課題だと考えている。これがQIの評価というところで、ロジックモデルにどのよう組み込んでいけるのかが1点である。もう1点は県民性や経済面の問題により治療難しいこともある。これを協議会でどこまで評価できるのか。少なくとも治療の均てん化は進めていかなければならない。

A.増田委員:QIに関しては、現在DPCを行っている病院や院内がん登録を行っている病院であれば参加することが出来る。しかし、沖縄県では参加施設が少ないという問題がある。

報告事項

1. 「第8次沖縄県医療計画」について

系数委員から資料10に基づき、第8次沖縄県医療計画について報告があった。

2. 「第4次沖縄県がん対策推進計画」について

系数委員から資料11に基づき、第4次沖縄県がん対策推進計画について報告があった。

3. 「沖縄県若年がん患者等支援事業」について

系数委員から資料12に基づき、沖縄県若年がん患者等支援事業について報告があった。

天野委員から、がんが相当程度進行してから介護保険を申請する患者さん、ご家族が結構おり、介護保険が間に合わないことがあるため、当該支援事業についても、申請があったら速やかに給付できるようご高配いただきたいとの意見があった。

島袋委員から、現在治療を受けているAYA世代の患者に、この事業をどう周知しているのかとの質問があった。沖縄県健康長寿課の河野班長より、3月に各市町村に当該事業の説明を行い、現在各市町村でこの事業を採択するか検討しているところであるとの回答があった。また、市町村が実施することを決定したら、その住民に向けて説明する予定であるとの回答があった。

4. 患者会よりの報告

(1) 田盛委員報告

田盛委員から資料13-1に基づき、やいまゆんたく会（八重山のがん患者を支援する会）の活動について報告があった。

(2) 島袋委員報告

島袋委員から資料13-2に基づき、若年性がん患者会 Be style の活動について報告があった。

(3) 又吉委員報告

又吉委員から資料13-3に基づき、がん患者団体の会員及びがん経験者個人としての活動について報告があった。

5. 各拠点病院が取り組んでいるがん対策について

資料14に基づき、増田委員、柴山委員、戸板委員、宮里委員、西原委員、松村委員から各拠点病院が取り組んでいるがん対策について報告があった。

6. アピアランス支援モデル事業について

増田委員から資料15に基づき、アピアランス支援モデル事業について報告があった。

7. 大腸がん死激減プロジェクトの進捗状況について

増田委員から資料16に基づき、大腸がん相談室医師向けポスターについて報告があった。

8. 沖縄県がん患者等支援事業の活動報告について

増田委員から資料17に基づき、沖縄県がん患者等支援事業について報告があった。

9. 沖縄県地域統括相談支援センターの活動報告について

増田委員から資料18に基づき、沖縄県地域統括相談支援センターの活動について報告があった。

10. 厚生労働省におけるがん関連審議会及び各種会議

- (1) 第24回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会
ワクチン評価に関する小委員会
 - (2) 第26回厚生科学審議会がん登録部会
 - (3) 第41回がん検診のあり方に関する検討会
 - (4) 第15回がん診療提供体制のあり方に関する検討会
 - (5) 第24回がん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会
- 増田委員から資料19に基づき、各部会・検討会について報告があった。

部会報告事項

1. 医療部会

増田委員から資料20に基づき、医療部会の活動・取組状況について報告があった。

2. 緩和ケア・在宅医療部会

笹良部会長から資料21に基づき、緩和ケア・在宅医療部会の活動・取組状況について報告があった。

3. 小児・AYA部会

浜田部会長から資料22に基づき、小児・AYA部会の活動・取組状況について報告があった。

4. 離島・へき地部会

増田委員から資料23に基づき、離島・へき地部会の活動・取組状況について報告があった。

5. 情報提供・相談支援部会

友利部会長から資料24に基づき、情報提供・相談支援部会の活動・取組状況について報告があった。

6. ベンチマーク部会

増田部会長から資料25に基づき、ベンチマーク部会の活動・取組状況について報告があった。

以上